

令和元年度第1回下関市子ども・子育て審議会 会議録

日 時	令和元年5月30日(木) 15:00~16:30	場 所	下関市商工業振興センター 3階第2研修室
委 員	横山眞佐子委員、宮川雅美委員、山本友香委員、梶山正迪委員、田中義道委員、 今村方子委員、戸田宏純委員、若松佐織委員、藤原康子委員、西本和史委員、 登根里美委員、吉川英美委員、池田理江委員		
事務局	林部長、三好部次長、 嶋津子育て政策課長、大谷子育て政策課長補佐、岡崎主査、森脇係長 東矢幼児保育課長、丹嶋幼児保育課長補佐、村田係長、齋藤課長補佐、森本主査、 岡田主査、盛満主査 柳生こども家庭支援課長、谷山こども家庭支援課長補佐		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・“For Kids”プラン2020策定スケジュールについて ・下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査 調査結果と次期計画に向けた課題 		

事務局 (大谷補佐)	<p>それでは、1名まだ席につかれておられませんが、ただいまから、子ども・子育て審議会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。会議に先立ちまして、退職に伴い、4名の委員さんが交代をされましたので、新たに就任される委員さんを、辞令の交付とともにご紹介いたします。</p>
	<p>【委嘱及び任命】</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>以上で、新委員の辞令交付及び紹介は終了します。なお、任期は令和元年8月1日までとなっております。</p> <p>それでは、改めまして令和元年度第1回子ども・子育て審議会を開催いたします。開会にあたり、こども未来部部長、林からご挨拶を申し上げます。</p>
林部長	<p>皆様、こんにちは。本日は大変暑い中、大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。いよいよ年号も変わりまして、子ども・子育て審議会においては、“For Kids”プランの策定、見直しの年度になります。</p> <p>簡単に申しますと、子どもと子育て家庭を支援する計画をつくるということでございますが、その施策の方向性やいろいろな項目を、どのような方向でどれぐらいの量で行うのかということを決めるものでございます。新委員の皆様の自由闊達な意見を戦わせていただきまして、年度末には立派な計画ができあがるように期待しております。よろしく願いいたします。以上でございます。</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>それでは、会長、進行のほうよろしく願いします。</p>

会長	<p>今日もよろしくお願いいたします。それでは、ただいまより令和元年の第1回下関市子ども・子育て審議会を開かせていただきます。</p> <p>最初に、事務局のほうから今日の委員の出欠状況をお願いいたします。</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>本日は、委員総数19名のうち、5名の欠席で、14名の出席をいただく形になります。過半数の出席がございますので、下関市子ども・子育て審議会条例第6条第3項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。</p>
会長	<p>今日の進行は、お手元に配られている資料の次第にしたがって進めます。会議は16時30分までの予定となっております。それでは、資料の説明を事務局のほうからお願いいたします。</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>はい。本日の資料について説明いたします。席上に2種類の資料を配布しております。1つ目は、A4 1枚の“For Kids”プラン2020策定スケジュールです。もう1つは、下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査調査結果と次期計画に向けた課題と書かれたA3で10枚のものです。お手元にない方はいらっしゃいませんか。</p> <p>それでは、事前に配布しております薄い緑の冊子、下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査、調査結果報告書ですが、本日お持ちにならない方がいらっしゃいましたら、準備しておりますので挙手をいただければお持ちいたします。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、事務局より1件提案事項がありますので、説明をさせていただきます。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>はい。子育て政策課、岡崎です。今回のプランの策定について、策定の支援として、調査・分析を株式会社サーベイリサーチセンターに依頼しています。策定作業をスムーズに進めるために、今回から計画策定が終わるまでの間は、この審議会の事務局に同席させたいと思っておりますので、ご承諾をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>提案があった件について、皆様いかがでしょうか。よろしいですか。</p>
委員	<p>異議なし。</p>
会長	<p>はい。それでは異議がないとのことですので、そのようにさせていただきますと思います。</p> <p>最初の議題の1枚目の“For Kids”プラン2020策定スケジュールについてご説明をお願いします。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>今回策定する“For Kids”プラン2020は、子ども・子育て支援法第61条の規定に基づく市町村子ども・子育て支援事業計画、次世代育成支援対策推進法第8条の規定に基づく市町村行動計画、母子及び父子並びに寡婦福祉法第12条の規定に基づく自立促進計画の3つをまとめたものとなります。構成等については、次回以降の審議会でお示ししたいと考えています。</p> <p>それでは、スケジュールについてご説明します。左側策定内容の項目には、策</p>

	<p>定に当たって行う作業を記載しています。右側には、子ども・子育て審議会の開催予定時期と、その際にご審議いただく内容等を記載しています。</p> <p>それでは、順番に説明します。6月は、子育て支援センターや子育てサークルといった機関、団体へのヒアリングの実施、平成30年度実施事業の照会、量の見込みの算出を行います。7月はこれらの結果を集約し、7月末～8月初めに予定しております、審議会での検討資料を作成します。内容は、団体ヒアリングの結果報告、第一期計画評価の報告、量の見込みの検討、課題検討、骨子案検討の予定です。7月末～8月初めの審議会で頂いた意見等を盛り込んだ上で、8月～9月は素案の作成及び確保方策の検討を行い、10月初旬に予定しております審議会で、素案についての1回目の検討を行っていただき、修正を加えたものを11月下旬に予定しております審議会で確認していただくという流れになっております。11月末の審議会でいただいたご意見等を反映させた上で、12月～1月にかけて1か月間パブリックコメントを実施します。結果については2月初旬の審議会で報告いたしますが、この時に、対応案とともに最終案をお示しいたします。修正が必要な部分があれば、それを修正するという前提で策定完了としたいと考えております。なお、修正作業は2月末までに完了させ、3月末までには製本作業まで終える予定です。</p> <p>以上でスケジュールの説明は終わります。</p>
<p>会長</p>	<p>スケジュールに、こういうことを入れたほうがいいのではないか、など何か聞いておきたいことはございませんか。ないということですので、続きまして、この下関市の子ども・子育て計画見直しのためのアンケート調査と、調査結果と次期の計画に向けた課題について説明をお願いいたします。</p>
<p>岡崎子育て政策課主査</p>	<p>はい。それでは下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査、調査結果と次期計画に向けた課題について説明いたします。席上へ配布しておりますA3の10枚の資料です。</p> <p>まず、薄い緑色の少し厚い冊子のこの資料がどのような関係があるのか、どのようなものなのか、ということについて簡単にサーベイリサーチセンターのほうから説明をします。</p>
<p>SRC</p>	<p>本会議での資料につきまして、昨年度実施いたしました子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査ですが、全体の細かい内容はこの緑の冊子に記載しております。その調査の結果として、このA3の会議資料の見開きの2ページ、または片面1ページごとに、現計画の施策目標、あるいは施策の方向別に特徴ある結果としてまとめております。その結果から読み取れる課題を、ページの下、あるいは右下にまとめ、課題より、次期計画策定時に検討が必要だと考えられる取組を整理いたしました。今後の計画の策定に反映させていくべきものになります。追加すべき課題など、実際に子育て支援に関わられている委員の皆様方のご意見やご提案などを加え、完成させたいと考えております。よろしくお願いいたします。</p>

	<p>します。</p>
<p>岡崎子育て政策 課主査</p>	<p>それでは、下関市の子ども・子育て計画見直しのためのアンケート調査、調査結果と次期計画に向けた課題ということで、資料にまとめていますが、順を追って説明いたします。</p> <p>委員の皆様事前に配布しております、下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査 調査結果報告書には、アンケートの結果を数値とグラフで示すとともに、その傾向についての説明が附されています。全てを説明する時間がないので、その中から抜粋した項目に、考えられる課題と、検討すべき取組を加えたものを資料として配布しております。本日はこれに沿って説明させていただきます。</p> <p>それでは、1ページをご覧ください。まず、調査の概要です。調査目的は、下関市子ども・子育て支援事業計画、下関市次世代育成支援行動計画の基礎資料とするためです。調査対象は、就学前児童がいる家庭及び、放課後児童クラブを利用している児童の世帯となっています。調査方法は、就学前児童がいる家庭については、郵送で、放課後児童クラブを利用している児童の世帯については、放課後児童クラブを通じて配布、回収しております。調査時期は、平成30年12月10日～平成30年12月28日までですが、少しでも調査精度を上げるため、平成31年2月21日回収分までを結果に反映させています。回収結果については、就学前児童で2,408票、放課後児童クラブで1,304票で、有効回答率はそれぞれ、48.2%と73.9%となりました。調査の概要については以上です。</p> <p>それでは調査結果の説明に入ります。1番、子育て家庭の状況です。(1)世帯構成としては、就学前児童調査では、核家族が8割を超えています。と記載していますが、児童クラブ利用者も含めて、9割弱が核家族となっています。また、ひとり親世帯の割合は就学前児童調査で6.1%、放課後児童クラブ利用者調査で19.1%となっています。これは、基本的に保護者が就業していない場合は児童クラブを利用できないことと、ひとり親世帯が利用しやすいように配慮していることが影響していると考えられます。</p> <p>続いて、(2)子どもをみてもらえる親族・知人の状況です。上のグラフからは、子どもを日常的、緊急時にみってくれる人がいない家庭の割合が1割を超えていることが見て取れます。下のグラフからは、子どもをみってくれる人がいる家庭においても、5割以上が、みってくれる人の身体的、精神的な負担や子どもにとっての環境を心配したり、心苦しさを感じたりしているということがわかります。これらのことから考えられる課題としては、核家族家庭、ひとり親世帯、子どもをみってくれる人がいない家庭等、家庭の状況に応じて利用することができる支援の提供体制が必要であるということです。検討すべき取組としては、それぞれの家庭の状況に対応した子育て支援の充実と考えられます。</p> <p>次は、3ページの 2 就学前の教育・保育の総合的な提供についてです。</p>

	<p>(1) 保護者の就労状況では、就労している母親の割合も両親ともに就労している家庭の割合も5年前の調査と比較して上昇していることがわかります。そして(2)の教育・保育事業の利用状況・利用意向では、年齢が上がるにつれて利用している割合が増加し、3～5歳では97.1%にまで達していることがわかります。</p> <p>4ページに移ります。一番上のグラフは、何時まで利用したいかというもので、左から12時台以前、13時台と下に示している順番に並んでいます。19時台、20時台の割合も6.4%ありますが、約9割は18時台までの範囲での利用希望となっています。その下の土日の利用希望については、必要ないと回答した割合が半数以上ですが、土曜日の利用意向がある割合は42.4%、日曜日・祝日の利用意向がある割合は14.2%となっています。そして、下のグラフですが、幼児教育・保育の無償化が実施された場合の就労希望についてです。フルタイムで就労している者を除き、「新たに就労したい」と回答した母親の割合は23.4%、「パートタイムからフルタイムに変わりたい」と回答した割合は6.6%となっておりますが、現状を変える希望がないという割合も6割程度となっています。</p> <p>これらのことから、様々な状況に応じた教育・保育事業の提供体制の整備や、潜在的な利用意向や教育・保育の無償化による動向を踏まえ、適切な見込量を算出することが課題であると考えられます。検討すべき取組としては、このような多様化するニーズに、どのようなサービスを提供するかということであると考えられます。</p>
委員	<p>放課後児童クラブですが、これは児童クラブの皆さんにアンケートしたのですよね。たとえば、緊急の時に預かってほしいという意見をお持ちの一般の方は結構多いと思います。もちろん、児童クラブに通われている方のご意向を伺うことも大事なことです。そのような方々の意見が全く入っておりませんので、それ以外のご意向も伺うべきではないかなと思います。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。ここには、児童クラブに行っている人の数字しか挙がっていないということについてです。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>この度は、調査が終了していますので、今から再調査というのは少し難しいのですが、また、5年後の見直しの際に、もう少し抽出範囲を広げられるのであれば、広げることも考えるべきだということを記録として残しておきます。</p> <p>求められている基本的な内容というのが、未就学児の方を対象とした事業が大半ですので、今回は、放課後児童クラブについては放課後児童クラブ分ということで、広く一般の小学生全体にということとは考えておりません。</p>
委員	<p>たとえば、今日と明日の2日だけ預けたい、というような突発的なこともあると思います。我々も実は、現に卒園児や在園児のお兄ちゃん、お姉ちゃんなどを、事情によって見てあげることもあります。</p> <p>児童クラブに通うということが必要とされており、それが一番大事なことです。下関は住みやすい町だと言えるためにも、突発事項がある方への対応が必要</p>

	<p>ではないでしょうか。そして、下関も今や、いわゆる転勤族の方が多数いらっしゃると思います。そのような方は、おじいちゃん、おばあちゃんが近くにいないので、1日2日でも預かってくれる方がいらっしゃいません。そのようなことをもう少し汲み上げると、まだやり方があるのかなと思います。</p> <p>たとえば、我々や保育園さんなど、安心安全な設備はたくさんございますので、そのようなものを利用するのも1つの手かだと思います。以上です。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>ありがとうございます。</p>
会長	<p>確かに、子育て中には突発的なことが必ず起きます。そのような時の対応をしてもらえるのか、もらえないのかというのは、子育て中の安心につながるかに関わります。放課後児童クラブを利用していない人は、何かあっても、1日2日あそこへ行っておいでとは言えません。あるいは、受け入れ体制ができていません。さらに、小さい子どもも今後、一緒に放課後児童クラブの希望があると言われるようになると、見る方たちのキャパシティ、あるいはその人たちの持っている力がどのようになるのかというような問題が発生します。数字だけではなく、ソフトの問題についても、徐々に考えていかないといけないと思います。</p>
委員	<p>今の問題ですが、市はきちんと用意されているのです。なかべ学院や大平学園などがあります。しかし、安岡より遠い家庭で、緊急時に彦島のなかべ学院まで連れていけるか、という問題なのです。確かに受け入れ皿はありますが、それはあくまでもつじつま合わせで、実質はあまり機能していないのではないかなという気がします。よろしくお願いします。</p>
会長	<p>はい。今後の課題ですね。他にご意見はございますか。</p>
委員	<p>アンケートの4ページの上のほうにある、土曜日、日曜日の利用意向について、ただ、利用したい、利用したくない、との問いでは、そのニーズの中身まではなかなか見えてきません。土曜日については、保育関係は当然開いているわけです。現在、日曜日は、休日保育というのがあり、利用されている方もいらっしゃるのですが、実際のニーズの中身はどのようなものなのでしょうか。</p> <p>たとえば、まちに行くと、デパートやスーパーは特に女性がたくさん働いており、そのようなニーズが高いのだらうと思います。しかし、保育施設は福祉施設でありながら、当然のように日曜日は閉まっているというのが現実です。日曜日に利用したいという数字の中身がわかりますか。</p>
S R C	<p>この結果には、載せていないのですが、父親、母親の就労状況で、週の就労日数を聞いております。6日働いている方、7日働いている方も多くいらっしゃいますので、就労日数とクロス集計をしましたら、土曜日や日曜日に就労のある方のニーズがわかるかと思います。その集計を追加したいと思います。</p>
委員	<p>ありがとうございました。</p>

<p>会長</p>	<p>他にご質問、疑問点、もう少しここを追加したほうが良いのではないかと 点はございませんか。</p>
<p>岡崎子育て政策 課主査</p>	<p>5ページの3 放課後児童クラブの利用状況・利用意向に移ります。(1) 放課後児童クラブの利用希望です。まず、5歳の子どもの、小学生になってから放課後に過ごさせたい場所ですが、これは複数回答可となっており、1番は自宅となっており、割合としては、5割弱となっています。放課後児童クラブ(学童保育)と回答した割合は2番目に多く43.6%となっています。5ページの下と、6ページの上のグラフは、児童クラブ利用者への設問です。低学年と高学年で差異はありますが、現在利用中の方は、今後も継続して利用希望であること1年生では5割以上が高学年までの利用を希望していることがわかります。(2)の放課後児童クラブへの要望では、利用可能時間の延長が43.1%と最も高くなっています。課題としては、就学前児童における、放課後児童クラブの利用ニーズの高まり、高学年までの利用ニーズは高まりがあります。検討すべき取組としては、それらニーズに対応した提供量の確保と考えられます。</p> <p>ここまでで、質問や、他にもこういった課題があるのではないかと等のご意見がありましたらお願いします。</p> <p>それでは、説明に戻ります。4 一時的な保育事業の利用状況・利用意向です。(1) 病児・病後児保育事業の利用意向では、病児・病後児保育施設等の利用意向がある割合は37.3%、(2)の一時的な保育事業の利用意向がある割合は40.6%となっています。課題としては、病児保育や、一時的な保育を必要としている割合が4割程度あり、事業の充実を図る必要があるということですが、どのようにそれらニーズに応えていくのかということが検討すべき取組となっています。</p> <p>8ページに移ります。5 仕事と生活の調和の実現の項目です。ここでは、(1) 育児休業の取得状況と、(2) 父親の家事・育児への参加状況を見ています。育児休業を取得した(取得中)母親の割合は33.9%であり、5年前の調査と比較して上昇しています。</p> <p>次ですが、これは報告書の100ページを見ていただいた方がわかりやすいのですが、もし、保育園等に必ず入ることができるなら、お子さんが何歳になるまで育児休業をしたい(したかった)ですかという、問に対する回答で、1~2歳未満が最も高くなっていますが、次に高いのは3歳以上となっており、できればもっと長めに育児休業を取得したかったということがわかります。父親の家事・育児への参加状況は約8割と高めの結果となっています。課題としては、育児休業を取得しやすい体制の整備や、育児に参加できない父親の理由として「仕事が忙しいから」という理由が高くなっていることから、それを緩和するためにも、仕事と子育てを両立できる環境づくりが重要である、ということで、これが検討すべき取組にもつながっています。</p> <p>9ページに移ります。6 子育てに関する情報提供です。ここでは、情報の入</p>

	<p>手や、各種支援事業の認知度を聞いています。入手できていない、あまり入手できていないの割合は約4割となっており、どのような情報が不足していると思うかについては、これは複数回答ですが、トップは、「子どもの遊び場の情報」、次に「各種手当や手続きに関する情報」となっています。各種支援事業については、全体的にみると、利用経験がない場合であっても、認知度はある程度高いことが伺えます。課題としては、やはり、必要な支援や相談につなぐためにも、前提となる情報の提供や、アプリをはじめとしたサービスの周知があげられます。検討すべき取組は、子育てに関する事業や手続きの情報提供と利用しやすい体制の整備が考えられます。</p> <p>11 ページ、7 子育てに関する相談に移ります。先に(2) 子育てに関する相談の状況を見ていただくとわかるように、気軽に相談できる人又は場所が、あると回答した割合は95.5%と高くなっていますが、(1)の子育てに関する不安・負担において、『不安や負担を感じる』と回答した割合は4割を超えています。(3)の公的相談窓口の利用状況で、利用したことがある割合が5.9%と低いこともあわせて考えると、不安に感じることがあっても、相談先として、公的相談窓口を選択することが少ないという実態が見えてきます。課題に挙がっているように、相談窓口の情報が子育て家庭に周知されることが重要で、さらに、よく、市役所は敷居が高いといわれますが、気軽に相談しやすい雰囲気も大切であると認識しています。検討すべき取組としては、子育てに不安・負担を感じる家庭に対する支援の充実、関係機関・地域との連携による相談体制の充実を挙げていますが、既存のもの周知についても必要であると考えています。</p> <p>続いて、8 地域子育て支援拠点事業の利用状況・利用意向についてです。左ページの利用状況と右ページの利用意向をあわせて説明します。報告書の54ページには年齢区分のないグラフが出ていますが、拠点事業等の利用状況は、合計で約27%となっています。また、右ページの利用意向では、今後利用したいの割合が約3割となっており、潜在的な需要が高いことがわかります。以前お聞きした話では、知っていたらもっと早くから利用したのに、とか、下の子で初めて利用して、上の子の時にも利用できていたらよかったのにといった声がよくあるそうです。課題としては、事業の周知や、利用のきっかけづくりだと考えています。検討すべき取組に挙げていますが、子育て支援センターの利用促進が6、7の項目で説明してきた情報提供や、事業の認知度、子育てに関する相談等に繋がるものと考えています。</p> <p>ここまでで質問等ございますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>8ページの育児休業の取得状況のところ、これは育児休業を取った人についてのことなのですが、育児休業を終了した後、仕事に復帰した場合の職場のケアがどれくらいあるということについては調査ができないでしょうか。特に、第1子の育児休業と、第2子の育児休業の後では、生活サイクルが全く異なってくる</p>

	<p>という事情があるにもかかわらず、「育児休業が明けたのだから会議には出なさい」だとか、「実際の勤務ができない場合は自宅へ帰って仕事をしなさい」など信じられないような職場の事情を聞きます。女性の仕事を調査するという意味では、育児休業明けの方を対象にした調査も、もし可能であればしていただければと思います。</p>
会長	<p>企業、職場の問題はなかなか介入できないようなこともあるかもしれませんが、女性が働くということをこれからも大切に思われるのであれば、企業の対応も進めていかななくてはならないかもしれません。先ほどおっしゃったように、「下関は子育てしやすく、いい町だ」と思われるような何かを少しずつでも進めていかなければならないと思います。そのような企業があれば、それが表に出ていくことにより、さらに皆が「うちも」というようになるきっかけをつくるということでは大事だと思います。</p>
委員	<p>14 ページの子育て支援について、確かに認知度が低いということは間違いのないことで、これは随分前から言われていることです。市内に、各子育て支援センターがあり、かなり活用されているのですが、それでも、初めて知ったという方や、転入してきた時に何がどこにあるかよくわからないという方などがいらっしやると思います。たとえば、お母さん方が利用されている情報ツールとして、おそらく今は携帯が多いので、その携帯の利用の仕方、たとえば、インターネットでも、利用の時間などがわかるということが言われているので、そのようなことをさらに詳しく分析することが効果的ではないでしょうか。下関も紙ベースでいろいろなものを作っていますが、それもなかなか周知されないということがあります。効果的なところにしっかりと力を入れていくということが必要になってくると思います。</p> <p>多くの施設で、様々な工夫をしたり、子育て支援に関しては、いろいろな活動をされたりしていると思うのですが、やはり活用しないもったいないことがたくさんあります。是非そのあたりも併せて、どのような方法がいいのかということをしかり検討していただければと思っています。</p>
会長	<p>情報発信の方法は、いろいろあると思うのですが、皆さん方も現場におられたら、親が利用できる方法がおわかりになるかと思います。初めて子どもを生んだ右も左もわからないお母さんや、転入してきたばかりで、今のことで一生懸命でどこに行けばいいのかわからず、知らないままで子育てをしてしまうお母さんなどが情報を得られる方法を考えると、何かアイデアがあると思います。そのような方法も、皆さん方が考え、アイデアをどんどん出してくださいと、その中でできるところからやっていくことができます。</p>
委員	<p>今の提案事項の補足をさせていただきたいと思います。私共は支援センターをやっているのですが、町内会の回覧で一気に知名度が上がりました。情報の入手先として、ここに挙がっているリストだけでなく、たとえば町内会の回覧など、</p>

	<p>それぞれのエリアで共有できる情報ソースも今後入れておいていただくと、また違う結果が出てくるのではないのかというご提案です。</p>
会長	<p>そうですね。町内というのは、地元の人たちが、配られたものに一応は目を通すわけですから、それはいいかもしれません。</p> <p>他に、このような方法はどうかというご提案はございませんか。</p> <p>お母さんになる前に母子手帳などもらう時には、必ず子育て支援センターの情報は伝わっていますね。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>チラシはいろいろなものがあります。「こんにちは赤ちゃん」や「あなたの子育て支援します」の冊子にも書いてあります。皆さん、もらってはいるのですが、見ていない方もいらっしゃるかもしれないので、情報発信の方法は考えています。広報も連続して入れてもらっています。</p>
会長	<p>たとえば、母子手帳をもらう時に住所がわかるので、該当する地区の子育て支援センターに赤い線でも引いてくだされば、たくさんある中で行く場所がわかると思います。そのような、その人に合った情報の提供の仕方をしてあげると、ほんの少しの親切心があると良いかなと思います。</p>
委員	<p>それが一番難しいですね。</p>
委員	<p>私のところは支援センターをやっているのですが、意外とホームページやもらったチラシの情報を見て、電話を掛けてこられる方がいらっしゃいます。曜日や利用時間などいろいろと聞かれ、最後に、場所を聞かれ、伝えると、そうですかとおっしゃるのですが、後で調べられて、遠くて行けませんということがあります。転入された時などに地図で見ると、すぐ近くのように感じると思うのですが、下関市は市町村合併でかなり広がっているんで、案外遠く、行けないというようなこともあります。</p>
会長	<p>いろいろな意味で、きめ細かいサポートというのをちょっとずつでも考えられると良いと思います。</p>
委員	<p>言い方は失礼ですが、アンケート全体を見て感じたことは、上っ面をさらっと読み取っているということです。これではやっている、やっていないという内容だけです。どのように何をやるのかという内容を盛り込むことで、もう少し一歩前に進んだアンケートが取れるのかなと思います。</p> <p>今、話題に出ています子育て支援ですが、たとえば我々私立幼稚園も、「いずみポップクラブ」という子育て支援の活動をしています。我々の子育て支援事業、「いずみポップクラブ」に来たら、泉幼稚園に入らないといけないのではないのかというご心配を毎回されます。まずは、そのような場で、同じ境遇のお母さん方とお友だちになり、子育ての悩みなどを相談する場に使っていただきたいのです。そして、0、1、2歳のお子さんが体験保育などをし、幼稚園や保育園の環境に慣れた上で、幼稚園、保育園に入る、というのがお子さんにとってはよりベストですよというお話もさせていただきます。かわいい我が子のために一番困っ</p>

	ていらっしゃる若いお父さん、お母さんをいかに支援するかということが一番大事なことだと思います。
会長	数字だけでは表せないようなこともありますので、そのようなソフト面で、できることをやっているところをきちんと把握し、必要な人に必要な情報が伝わるような方法をいろいろな形で考えていくというのが、これからの課題です。
岡崎子育て政策課主査	<p>それでは、説明に戻ります。9 地域の子育て支援の状況です。先に(2) 子育てへの地域の支えの有無ですが、5年前と大差なく、支えられていると感じている人、いない人が半々程度とはっきり分かれた状況になっています。(1) 地域の人とのつながりの有無に戻りまして、比較的深い付き合いがある割合は約2割にとどまっていますが、立ち話をする程度の人がいるまでを加えると、およそ半分となります。(2)の結果から考えると、ここまでをある程度の人づきあいがあるとしてとらえた方がよいのではないかと感じています。課題に書いていますが、下関市が子育てがしやすいまちだと思う層では、「地域の人々や社会全体の支えを感じている」割合が高くなっていることから、検討すべき取組にあるように、地域と連携した子育て支援の充実を図ることにより、この割合を高めていけるのではないかと考えています。</p> <p>16 ページ、10 子どもの権利を守るための環境づくりに移ります。ここでは、虐待について聞いています。これは、昔は躰と言っていたものでも、場合によっては虐待に繋がるということで、その啓発の意味もあって問を設けています。割合としては低いものの、「子どもに虐待をしていると思う」と回答した割合が1.1%あることから、こうした家庭や子どもに気付き、見守りや支援を行う連携体制の強化を図る必要があること、「子どもに虐待をしそうになることがある」、「自分の行為が虐待に当たるのではないかと不安に思うことがある」と回答した割合が高いことから、虐待を未然に防止するため、身近な相談機関の周知や地域の支援体制を整えることが課題であり、検討すべき取組であると考えています。</p> <p>17 ページに移ります。11 健やかに育つ環境づくりです。(1) の下関市妊娠・子育てサポートセンターの利用状況ですが、制度が始まってからあまり年数もたっていないため、利用したことがある割合はあまり高くありませんが、関係機関や団体との連携を深め、周知を図ろうと努力しているところです。(2) の妊娠中・出産時の支援体制への満足度については、『満足した』と回答した割合は約8割であり、5年前と大差はありません。(3)の 小児救急医療体制への満足度については、『満足している』と回答した割合が5年前より10%以上上昇しています。課題については、現在進めているところではありますが、事業の周知を進めることを挙げています。情報提供や相談に関する項目と同様ですが、何らかの支援事業や、相談窓口等を利用することがあれば、この事業につなぐこともできるので、それらの情報提供が検討すべき取組であると考えています。</p>
会長	今、いろいろと社会的に問題になっている子どもの虐待が取り上げられていま

	<p>すが、それは虐待をする側の大人も、かつて育ちが保障されていなかったということがあり、大人になった時に子育てでまた悩むという悪循環を繰り返さないためには、子どもを育てる時に、育てられる子どもの側が将来大人になった時に、どのような大人になっていくのかということを考え、傷だらけの大人ではなく、人と連携できる大人になっていくサポートを、いろいろな人がしなければならないのではないかと思います。ここの9、10、11はそのような意味では、将来の子どもに向けてのサポートではないかと思うのですが、いかがですか。</p> <p>ここには全く書かれていませんが、地元のボランティアで子ども食堂をしたり、不登校の子どもやいろいろな子どもたちをサポートしたり、いろいろな活動をしていらっしゃる方々もおられると思います。それは、社協のようなところで把握していらっしゃるかもしれませんが、やはり行政側も、そのような方々、子育ての場所との連携し、理解し、後押しをする、あるいは一緒に何かするというようなことを、これからはされるのですね。</p>
<p>委員</p>	<p>一番大事なものは、相談員です。接し方、話し方を相談員にも勉強していただかなければなりません。そうでなければ、サポートセンターの場所を提示しても、1回行って、あの程度ならもう行くまいということになってしまいます。これは実際に聞いたことがある話ですので、相談員の質に関しては、そのあたりまで踏み込んではどうかだと思います。相談者は困っているから行くので、指導が大事になってくるということです。</p>
<p>委員</p>	<p>虐待のところですが、ここに挙がっているアンケートにはいろいろな感情が表れていると思います。大事なものは、ここに挙がってこない人たち、つまりどこにも所属していない子どもたち、家庭だと思えます。たとえば、幼稚園、保育園、こども園に所属している子どもたちは様子を見れば大体わかるので、虐待になる前に、保護者といろいろなお話をしながら対応していくことができるわけです。しかし、そうではない家庭に対してはなかなか難しいと思います。近所の方が気付くこともあるかもしれませんが、あるいは子どもが1人で警察に通報するケースもあるかもしれません。いろいろなケースがあるとは思いますが、下関では、どこにも所属していない人が大体どれくらいいるかということは把握されていますか。</p>
<p>柳生こども家庭支援課長</p>	<p>今のご質問につきまして、数字に関しては今日手元にはございませんが、昨年、重篤な虐待の案件、死亡事例などが続き、国のほうで、緊急総合対策や児童虐待防止対策体制総合強化プランというものが出されました。その中で、先ほどお話にもございましたが、たとえば幼稚園や保育園などに未就園の子どもさん、そして学童の子どもさん、不登校の状態である子どもさん等について調査するということ、国のほうから通知がございまして、関係機関のほうにも協力をいただき調べています。</p> <p>ただ、これも100%ではございません。実際に、このような方々を現認するま</p>

	<p>で調べなさいということなのですが、実際にお住まいになっていらっしゃるかどうかということもありますし、中には、海外に居を移されていて、住民票だけ置かれているというような方もおられましたので、実際のところ、全てが把握できているわけではございません。</p> <p>ただ、未就園の方、そして不登校の方についても、できるだけ情報がありましたら、たとえば、地元の方、そして幼稚園、保育園であれば、幼稚園、保育園から、学校であれば、学校や児童相談所から、場合によっては警察のほうに通報、通告をしていただけるような仕組みづくりを、今進めている状況です。</p>
<p>会長</p>	<p>このような問題は、日本全国どこでも起きる話ですし、「うちはこのようなことはない」と思っていたら大間違いだったりしますが、私は、ここにいらっしゃる、現場におられる先生方、あるいは子どもに関わっていらっしゃる方は、家庭というよりも、子ども自身を見た時にいろいろなことを感じ取られているのではないかなと思います。何もなければいいのですが、何かあった時に、そのようなことを、どこかで共有でき、サポートできるような体制、気付いた人が自分だけで抱えるのではなく、他の方もそれをサポートできていくような体制ができていけば、子どもが不幸にならない下関市になるのではないかなと思います。いろいろな意味で、子どもの目の前にいらっしゃる方々は、そのようなことを切に感じていらっしゃると思うので、そのような方々の声を聞かれたら良いと思います。</p>
<p>岡崎子育て政策課主査</p>	<p>次に行きます。12 ひとり親家庭への支援です。状況としては、暮らしの状況が『苦しい』と回答した割合は、ひとり親家庭で7割を超え、子育ての悩みでは、「子どもと過ごす時間が十分とれないこと」の割合が特に高くなっています。個別の制度ももちろんありますが、家庭の状況に応じた支援の検討が課題であり、なかでも、経済的に困難な状況にある家庭への子育て支援の充実が、検討すべき取組であると考えています。</p> <p>これで最後となります。13 子どもが安心して生活できる環境づくりです。(1) 子どもの遊び場の状況では、近所の遊び場について感じる事として、「雨の日に遊べる場所がない」、「遊具などの種類が充実していない」、「近くに遊び場がない」の割合が上位となっています。(2) 子どもを取り巻く地域の環境としては、子どもを取り巻く環境で気になる事として、「暗い道路、人通りの少ない道路や見通しのきかないところが多いこと」、「車・バイク・自転車の運転マナーが悪く、子どもが事故にあわないか心配なこと」の割合が上位となっています。課題と検討すべき取組として下の欄に記載しておりますが、社会全体で取り組むような内容もあることから、下関市の計画としてどのようなものとするべきかについては、次回の骨子案、その後の素案と、内容の検討を進めていく中で、委員の皆様のご意見等をお伺いしながら、現実的なものを策定したいと考えております。</p>

	<p>以上で説明を終わります。ご質問等ありましたらお願いします。</p>
会長	<p>今のところだけではなく、全体のことについても、言い忘れた、聞いておきたいことがあればお願いします。</p>
委員	<p>児童クラブの件に関してもそうですが、月曜から金曜まで申し込んでいて、たまたま土曜日に仕事が入ったので、預かってもらえないだろうかと聞くと、「それは、前月の何日までに手続きをしていないといけない」ということで利用できないことがあります。以前にもお願いをしたのですが、それでは意味がないのではないかなと思うので、緩和していただきたいです。</p> <p>そして、もう1点ですが、なかべ乳児院と児童養護施設があり、これに入所するためには、こども課に入所手続きを出すそうです。ただ、該当する項目がたくさんあり、それをクリアしなければ、入所できないのが現状だそうです。ニーズがあるのに利用できないということはいかなるものかなと思いますので、この点を見直していただけたらと思います。</p>
嶋津子育て政策課長	<p>もう一度、質問の確認なのですが、児童クラブの土曜日だけを利用したいということですか。</p>
委員	<p>いえ、そうではなく、土日が休みで、月曜から金曜まで就労しているのです。土曜日は申し込んでいないのですが、たまたま土曜日に出勤しなくてはならない際に、1週間前ぐらいに土曜日の預かりを申し込むと、それは、先月の何日までに申し込んでおかないと利用できないとのことでした。</p>
嶋津子育て政策課長	<p>突き詰めていけば、このお話は申請と許可というお堅いところの話になってしまうので、その部分での発言は、私は控えたほうがいいのかと思うのですが、基本的には、前月までという理由としては、申し込みが月曜から金曜までなのか、それとも、土曜日なのかで保育料が変わってくるということが1つあります。そして、土曜日は普通の半分もいないくらい利用者が少なく、利用者の見込みに対して、保育士、支援員を配置しますので、前月までに申し込む形であれば土曜日の利用が可能だというスタイルを今は取らせていただいています。ですが、改善の余地はあるかと思しますので、検討課題にさせていただければと思います。ただ、1か月の利用という事前の申請など、手続上の問題があるため、今すぐに変更ということはなかなか難しいと思います。</p>
委員	<p>たとえば、未就園児さんの預かりの現状はいかがですか。たとえば、まだ空きがあるのか、それとももう手がいっぱいなのか、いかがですか。</p>
嶋津子育て政策課長	<p>どちらのほうですか。児童クラブではないほうですか。</p>
委員	<p>なかべ学院の利用状況です。少ないのか多いのか、などという状況です。</p>
会長	<p>要するに、突発的に困っている人に対してのフォローがどこでできるのかということですね。前月に申し込んだ人はもちろん決まりで大丈夫だけれども、そうではなく、突発的な仕事でどうしてもこの日に誰かに預かってもらわなければ</p>

	<p>本当に困る、という方たちのフォローをできるところがどこにあるのかということですよ。</p>
委員	<p>それもあるのですが、突発的でなくても預かってほしい時に、こども課に申請するための要項がたくさんあり、それをクリアしなければ入れないので、なかなか入れないらしいのです。ニーズがあり、空きもあるのですが、利用しにくい状況があると聞いております。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>おそらく、ショートステイのことではないかなと思うのですが、ショートステイは、日中から、泊まりでの預かりもあり、確かにその際の要件はたくさんあります。全部満たさないといけないわけではなく、どれかを満たせばいいのですが、それを満たせる状況の人からの申し込みがなかなかないというのが現状です。</p> <p>今から何とかできるとははっきり言えるものはまだ何もないのですが、何かできないかなというのは考えているところです。</p>
会長	<p>これはだめ、あれはだめということを少しずつ緩和し、できるだけ利用者が利用できるような体制を整えつつ、そこで働く職員さんも調整しなくてはならないので、「はい、わかりました」というわけにはいかないと思います。少しでも前へ進められるといいと思います。数字だけではなく、利用される方が本当によかったと満足できるサポートをしなければならないですね。</p>
委員	<p>今日のアンケート報告を聞きながら、これから先、どのような計画をつくられ、どこに向かうのかなと考えているところです。少し余談になるかもしれませんが、この会はおそらく、下関市の子ども・子育ての計画をつくる見直しのための会議であって、子育ての計画の見直しをするだけの会議ではないと思います。ですから、子どもがよりよく育つためには、下関市の今の少子化対策に取りかかっていくためには、子どもに対する見方、考え方のようなところも、どこかで協議する必要があるのかなと思っています。</p> <p>親に調査をすると、やはり親のニーズや要求がたくさん出てくるのですが、私は現場にいと、親は変わったなと思うところがたくさんあります。ですから、親の変容を、子どもに対する見方として捉えていく視点等も同時に持っていなければ、子どもは育つのかという危惧がありましたので、申しておきます。</p>
嶋津子育て政策課長	<p>今、お話ししていただいたような会議や審議会等が他に存在するかということですが、市の教育委員会の部署は別にすると、この子ども・子育て審議会のみということになります。議会で特別に何か目的ができた時には、立ち上げることはあるかもしれませんが、今存在しているのは、この子ども・子育て審議会のみです。今現在、新しい計画、いわゆる通称“ For Kids ”プランについての検討を進めて、話をしております、これが大きなテーマになった流れはいいのですが、今お話があったように、本当の意味で、市の施策としてどのようにしていくべきなのかということをお話する場合は、確かに必要だなと感じます。</p>

	<p>それを、この子ども・子育て審議会の中に含めていくのか、新たに別の審議会や委員会を立ち上げていくべきなのかという問題もまたあると思います。私は今年3年目になるのですが、これからの下関市の子育てを考えていく、みんなで話し合っていく、検討していくというような審議会の流れには、少しなっていないのかなという印象は確かに持っています。</p>
<p>会長</p>	<p>この会は、皆さん方が活発に意見を述べてくださっていますが、そのことが踏まえられた上で、子育てだけではなく、子どもの育ちを下関市がどのような考えでつくっていくのかというようなところまで、皆さんのご意見が出て、それが反映されるような会議になると良いですね。この審議会でなされても良いですし、あるいは、何かそれに相当する会議があっても良いかなということですね。</p>
<p>嶋津子育て政策課長</p>	<p>今日は皆さんの意見をお聞きし、何点か、今の話とつながる部分があると思いました。たとえば、アンケート調査を実施するにあたり、このアンケートの中身についての意見が出たと思います。アンケートの中身がどのような形になっていて、このような項目で良いのかどうかということについて、事前に審議会の中で意見を聞いたほうが良かったのかもしれないと、確かに思いました。</p> <p>私どもがこのような調査をする場合、国が出している手引き書の中からアンケート項目をピックアップしています。それを元にしておけば、ある意味、全国的な横の比較もしやすいのかなと安易に考えていた部分もあります。</p> <p>アンケート調査の結果は、このような形で冊子や、今日お渡ししたものなどに短くまとめています。次に素案ができましたので、恐らく皆さんには、これを見て考えてください、というある意味事務的なお話をする事になると思います。ただ、本当のことを言いますと、素案をつくる時間や回数が許せば、その過程で皆さんの意見を拾い上げていきたいと思っています。今までの5年間の反省点を整理し、これからの5年間で市がすべきことを、実際に計画文書として盛り込んでいくという作業が薄いのかなという印象は確かに持っています。</p> <p>そのあたりが、今ご指摘いただいたお話、あるいは、今日全体を通して皆さんからいただいたご意見だと思うのですが、先ほど岡崎からの話にもあったように、アンケートもすでに終わっており、時間的な制約の部分があるので、少なからず、今年度はこれを策定してしまわないといけません。皆さんにも、大変お忙しい中、1年間の中で20回、30回とこのような形で集まっていただくこともなかなか難しいと思いますし、私どもも、追いつかないこともあります。反省点ばかりの話になってしまったのですが、今日いただいたご意見を少しでも反映する形で、次回の2回目以降は進めていきたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>現場におりますと、確かに今子どもたちが変わってきており、もちろん保護者も変わってきています。この“For Kids”プランは、これから5年間ですが、実はすごく長いようなのですが、いろいろな意味を持っていると思います。子どもたちが変わってきていると申しましたが、特に、園の場合はアセスメントという、</p>

	<p>子どもに対する目指すべき姿や評価、そのようなものを通して、子どもの育ちのあるべき姿を計画の中に盛り込んでいくという作業をしています。</p> <p>この計画のためのアンケートの中にも、親の意識を問う項目が出てくるわけですが、たとえば、家族構成は核家族がかなり進んでいるというのもありますし、従来の方が大きく変わっていることもたくさんあると思います。自分たちの生活を中心に物事を考える、あるいは、公的な目的ではなく、私的なものを優先するなどがあり、そのような意味で、園でいろいろな行事をするにしても、何をやるにしても、今までとは随分異なる方法で取り組まなければなりません。</p> <p>ですから、先ほど先生が言われたように、子どものあるべき姿と、そしてニーズとしてここに出てくるのでしょうか、親の願い、その双方の乖離をきちんと埋めていくような作業をしていかなければなりません。計画も、一つの制度として進んでいくわけですから、そのあたりをきちんと埋めこんでいかなければなりません。いくら制度ができて、現実とは少し異なっているというふうにもなりかねませんので、やはり、子どもたちのあるべき姿をしっかりと議論していくことも必要だと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>この“ For Kids ” プランを最初につくる時は、長く委員を務めてくださっている方々がアンケートの内容を話し合ってくださいました。</p> <p>やはり、全国ではなく、下関として行いたいこと、子どもに対する哲学のようなものが、一つ通っていることが必要ではないかと思います。今後出てきた数字をどう解釈するかということも、あるいはその後どのような施策をつくっていくかということも、やはり大事なことはないかと思います。</p> <p>今日は、これで終わりたいと思います。皆さん方は現場にいらっしゃるので、次の会の時はたくさん発言をしてください。どなたの発言もお求めいたします。覚悟して来てください。今日は時間ぴったりで終わらせていただきたいと思います。ありがとうございます。</p>
<p>事務局 (大谷補佐)</p>	<p>本日の開会にあたり、出席者数を14名とお伝えしましたが、出席ご予約の委員様1名が欠席となりましたので、13名の出席に訂正させていただきます。過半数の出席、そして会議の成立に変更はございません。</p> <p>次回の審議会の開催についてですが、7月末、または8月の初めを予定しております。8月の2日以降になった場合は、現役の皆様の任期が終了しておりますので、新たな委員の方の辞令交付を併せて行います。時期が近づきましたら、ご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>今日は、ありがとうございました。皆さん、次回もよろしくお願いいたします。ご苦労さまでした。</p>

議事録署名

委員 _____ 印

委員 _____ 印